

緊急地震速報、新たなデータの追加活用で早期検知へ

紀伊半島沖や南関東の地下に設置されている地震や津波の観測点など全国 67 カ所のデータが、今月 31 日から緊急地震速報に活用されます。

気象庁によりますと、追加されるは海洋研究開発機構、防災科学技術研究所がそれぞれ紀伊半島沖や南関東の地下に設置している地震や津波の観測点など全国 67 カ所のデータです。これにより、緊急地震速報(警報)を南海トラフ地震で最大数秒、首都圏直下の地震で最大 1 秒程度早く発表することができると見られています。

詳細はこちら (気象庁 HP)

<http://www.jma.go.jp/jma/press/1503/24a/eewkatsuyou20150324.pdf>